



Chartered April 11, 1998

THE Y'S MEN'S CLUB OF ASHIYA

Address : Yasuo Ueno 〒659-0074 2-8-304 Hirata-cyo, Ashiya, Hyogo, Japan
 Mail : uenoashiya@kdb.biglobe.ne.jp Tel. 0797-32-9360
 URL : http://www.kobeymca.org/kobe_ymca/ys/ashiya.html

主 題

国際協会会長 Henry J. Grindheim (ノルウェー)
 「ともに、光の中を歩もう」 "Let Us Walk in the Light-Together"
 アジア太平洋地域会長 Tung Ming Hsiao (台湾)
 「ワイズ運動を尊重しよう」 "Respect Y's Movement"
 西日本区理事 大野 勉 (神戸ポートクラブ)
 2022年に向けて「心身の健康づくりからクラブの健康づくりへ」
 "Healthy mind & healthy body make healthy club"
 六甲部部长 杉本隆人 (神戸学園都市クラブ)
 「共感しあい、支えあおう」
 Empathy each other, Root Y's & YMCA
 芦屋クラブ会長 柏原佳子
 「賜物にしたがって」 "According to the gift"

今月の聖句

信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。・・・信仰によってアブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くように召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです。
 <ヘブライ人への手紙 11:1 & 8>

7月第1例会

と き: 2017年7月19日(水) 19:00~21:00
 と ころ: ホテル竹園芦屋 3F宴会場
 司 会: 柳原謙介連絡主事

1. 開会点鐘	上野恭男直前会長
2. クラブソング斉唱	一同
3. 聖書朗読	羽太英樹ワイズ
4. ゲスト紹介	司会
5. 役員交代式 司式	五十嵐直前会長
6. 食前感謝	権 甲植ワイズ
7. 会食・懇談	
8. 部長公式訪問説話	杉本隆人六甲部部长
9. メンバーズ・スピーチ	柏原佳子会長
10. 第2例会議事録の承認 各事業委員の報告	柏原佳子会長 事業委員
11. YMCA報告	柳原謙介連絡主事
12. ニコニコ献金報告	島田恒ワイズ
13. 誕生日祝い 篠坂幸彦、都筑省三、羽太英樹、菅原 進(各メン) 羽太光子メネット	柏原佳子会長
14. 閉会点鐘	柏原佳子会長

会 長 柏原佳子
 直前会長 上野恭男
 副 会 長 桑野友子・堤 清
 書 記 上野恭男
 会 計 羽太英樹
 監 事 五十嵐政二
 連絡主事 柳原謙介
 六甲部Yサ・ユース主査 上野恭男

7

July, 2017
 241号

賜物を輝かせましょう



Uniquely You,
 Beautifully You,
 Bloom together!

会長 柏原佳子

今期、芦屋クラブは20周年を迎えます。10周年には「21本の薔薇のブーケ」を会長標語としました。覚えてくださっていますか? ロマンティックな会長でした。芦屋クラブもこの10年間に多くの入れ替わりがありました。悲しいお別れは特に鮮明にその方の奉仕と笑顔を思い出します。皆様が皆、「ただいま」と戻ってこられたなら!と夢のようなことを考えることがあります。でも、20周年記念例会にはお会いできる、天国からも見守ってくださると心から信じます。会長標語を「According to the gift 賜物にしたがって」とさせていただきます。外に向かって問いかけるよりも、自身に対して問いかけるとき、心は正直に答えます。私たちは生かされ、生きるとは魂を輝かせることだと。主の導きにただ素直に従い、3度目の会長をお引き受けする中での新しい出会いは勇気が生まれます。個性溢れる経験豊かなメンバーの中で10年の歳月は私に暖かな居場所を与えられたように感じています。主の導きにただ素直に従い、会長職を真摯に受け止め感謝のもとに奉仕をさせていただきたいと思ひます。

6月例会出席表

第1例会出席者		例会出席率		BF切手 累計 gm
メンバー	10名	出席者	9名	
ビジター	1名	メイクアップ	名	
ゲスト	2名	合計	9名	
メネット	1名	在籍者	18名	
コメント		(内広義会員1名)		
合計	14名	出席率	64.7%	
				ニコニコ 6月 10,600円 累計 162,242円

6月第1例会報告

日時：2017年6月21日(水)19:00～21:00

場所：ホテル竹園芦屋

出席者：上野恭男、柏原佳子、桑野友子、篠坂幸彦、島田恒、羽太英樹、福原吉孝、坂東幸子、中山豊美(各メン)、柳原謙介連絡主事、大澤昌子メネット

ビジター：野口善国ワイズ(ゲストスピーカー/神戸西クラブ)

ゲスト：菅原進氏 馬場啓司氏(みどり福祉作業所職員)



2017年度最後の6月第1例会です。上野会長がこの1年のあいだ皆さんの協力のもと無事に任期を終えることが出来た感謝を述べられました。

また、熊本での西日本区大会で、芦屋クラブ20周年でのクロードチアリ氏の出演をアピール出来たことを報告されました。毎月掲載されている羽太英樹ワイズの今月の聖句は、「人を裁くな。あなた方も裁かれることがない・・・」講話の内容にふさわしい紐解きに感謝いたします。

続いて、みどり福祉作業所に恒例の献金を上野会長より、大澤昌子メネットに贈呈されました。

大澤メネットから感謝の言葉と今春入社した馬場氏の紹介があり、会食懇談

の時がもたれました。夕食のビフカツは、大変おいしくてさすが竹園との声がしきりです。

ゲストスピーチは神戸西クラブの野口善国ワイズにご依頼し、演題は「少年の未来に賭ける」です。

野口ワイズは弁護士として青少年の様々な事件に関わり、彼らを擁護してきた実績がおありです。

お話は聞けばそうかというようなものではなく、原因は親の無関心であったり、貧困であったり、さまざまではあるけれど、愛に飢えている彼らを更生させ、未来が彼らのものであることを本音で教えた時に、本気で更生し、社会に寄り添える人間になっていくことが出来る。それを信じてこれからも彼らと関わっていきたくと話されました。現にこの春「先生、司法書士の試験に合格しました！」との事例を話され、全員が心と耳を研ぎ澄ませて聴き入りました。

講話のあと、5月第2例会の議事録が承認され、事業報告では、熊本での西日本区大会懇親会后、熊本みなみクラブとのDBC交流会のことが報告されました。

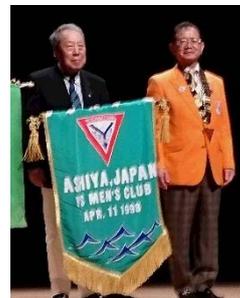
YMCA報告、誕生日祝い、ニコニコ献金報告そして、2016年度を締めくくる上野会長の閉会点鐘が力強く響きました。最後を飾るには少々恥ずかしい司会で、申し訳なく反省しきり……。

柏原佳子

第20回西日本区大会 in 熊本

地震を乗り越え「未来につなぐワイズ魂」

6月10-11日の西日本区大会は「熊本地震」の被災地への想いが随所にちりばめられていました。大会1日目は菊池市文化会館でフルートアンサンブルによる歓迎演奏の中、750名の参加者が続々入場、スタートを飾るバナーセレモニー、岩本理事の開会宣言で始まりまし



た。ワイズソングに続き、江頭菊池市市長・日本YMCA同盟主事・アジア太平洋地域会長・東日本区理事から来賓祝辞があり、新クラブ加盟認証式、部長報告、奈良傳授賞式、熊本地震支援活動報告等、充実の内容で進行了。

懇親会会場へはチャーターバスでの大移動、心配された交通渋滞もなくスムーズにホテル日航熊本に到着、担当者の綿密な計画に頭が下がります。懇親会では21回神戸大会のシンボルカラー若草色のリボンを付けたカンカン帽をかぶって大会をアピール、カンカン帽の手配は芦屋クラブと熊本みなみクラブの見事な連携プレーによるものでした。同時に芦屋クラブ20周年記念祝会のアピールもテーブルごとにチラシを手渡して回り、かなりの手ごたえがありました。聖日礼拝でスタートした大会2日目、事業主任報告と表彰、続いて役員交代式、岩本理事から大野理事へ、神戸での大会に向けて六甲部一丸となって頑張りましょう。

芦屋クラブからは上野会長、柏原次期会長と桑野の3名が参加しました。

桑野友子

チャリティゴルフに参加しました

熊本での西日本区大会の前日6月8日、例年通りチャリティコンペが開催されました。来期は六甲部主催の西日本区大会で、芦屋クラブがゴルフコンペの担当でもあり、上野会長、桑野ワイズと柏原の3名、下見を兼ねて使命感を持って、早朝4時起きもワクワク感で熊本空港カントリークラブに向かいました。熊本空港からはタクシーでワンメーター、スタート前に無事到着しました。

コンペは8組で台湾のアジア会長、元国際会長をはじめ、京都部、びわこ部のメンバーが多く参加されていました。顔見知りの方も多く、勇気を得て早速営業開始、来年の芦屋カンツリー倶楽部をアピールしました。プレー後は菊池市の笹の屋のバスで移動、50分ほどで宿に到着しました。



笹の屋での前夜祭は150人ほどが参加し、雰囲気もお料理も最高！特にゴルフの表彰式は、受賞者の名前が読み上げられる度に、あちらこちらで拍手と歓声が上がります。我々3人も飛び賞などをゲットできラッキーでした。日焼けされ高揚した上位入賞の方々のところに飛んで行って、また営業♪

前夜祭に参加したことで課題も何点か気づくことが出来ました。明日から始まる大会への期待と緊張が相まって華やかなひと時、熊本地震の大きなダメージを感じさせない運営に、心からお疲れさまと感謝を述べたいと思います。

柏原佳子

熊本みなみクラブに感謝して

熊本みなみのどなたかに電話してお願いしなければ！と思ったのは、カンカン帽のことでした。来年は大野勉理事のもと、六甲部が西日本区大会のホストを務めます。

6月の熊本大会で、アピールをするときにかぶることが決まったカンカン帽、百均で@150円で買うことが決まり60個を集めるのに苦労しました。

5月末のことで時間もないし、やっと熊本日航ホテル近くのダイソーで60個確保できました。しかし、対面販売でなければダメとのことで、熊本みなみの村上博ワイズに電話し、H・日航に届けていただくことが決まりホッとしました。

西日本区大会懇親会の後、籠町通りのお店で岩国みなみクラブも加えたDBCの集いを今井政文熊本みなみ会長が設営してくださいました。

芦屋クラブは桑野、柏原、上野の参加でしたが、顔もわかってとても良い交流ができました。村上ワイズは熊本市議で忙しく、西日本区大会は欠席なのが残念でしたが、内村、桑原、堀各ワイズとの再会を感謝します。

上野恭男

みどり福祉作業所バザーにぎわう

6月24日(土)みどり作業所のバザーが開催されました。芦屋クラブ各位にはメールでお知らせしましたが、柏原書記と上野で行ってきました。



陽光町の施設1階がバザー売り場、2階がイベント会場となっており、大勢の人で賑わっていました。フランクフルト、かき氷、綿菓子、おにぎりなども売られています。

甲南高校のブラスバンド

演奏などがあり、なかなか楽しい雰囲気でした。

大沢二郎ワイズ、昌子メネットも忙しそうですが、一緒に写真に納まっていたきました。

上野恭男

この度 Y's men' club 芦屋に入会させて頂きました中山豊美でございます。



神戸 YMCA を長年支えておられるクラブとは、深く存知上げずにおりました。

皆さまが長期にわたり経験豊かなボランティア活動をされておられるところに、島田先生のお誘いに軽い気持ちで入会させて頂き、あまりお役に立てないわたくしと思っております。

出来ることはさせて頂きますが、どうぞよろしく願いいたします。

只、小豆島にある、今井鎮雄先生発見のキャンプ場「余島」については、よく知っております。余島キャンパーで5年、1977年からは大人も余島生活を楽しめるオリブ会員として、今日まで多くの仲間達を連れて行き、今では余島歴30年の友と楽しみに行かせて頂いています。もう45年、余島にお世話になっているのでしょうか

建物の傷みは当然ありますが 大きくは全く変わっていない手つかずの自然豊かな島です。数十年同じ感覚を経験できる空気感、本当に贅沢な大切な島なのです。

この余島キャンプも67年という歳月を「青少年育成の場」として私共キャンパーを育て、リーダー・スタッフともに成長し、世に送り出している大切なキャンプ場、小豆島の無人島キャンプ場を守り続けるために、Y's men club のご尽力があると理解し、こころから御礼申し上げます。

昨今の神戸 YMCA の職員の方で、この余島を知らない方が多くおられることを聞き「原点は、何ぞや」ということを考え、青少年育成の場として感じるのが早道です。

「豊かさとは、これや」がわかる、楽しめ、お食事もできる余島センターへ皆さまも是非お越しください。

Ladies & Gentlemen

よしましよ代表 中山豊美



第10回キリスト教講座「士師記」

士師記はイスラエルの諸民族が、カナンに定住し始めてから、一人の王のもとに国として統一されるまでの時代が描かれています。その中心はイスラエルの民を救う士師たちの物語であると言えます。それは申命記から列王記を通して語られる「約束の地カナン」におけるイスラエルの民の壮大な物語の一部であり、文献学的に見ればヨシュア記から列王記に至る一続きの歴史的記述、つまり旧約聖書のなかの歴史書の一つと言えます。

イスラエルの人々が民族として生き残るためには、神様の律法に従い、イスラエルの神のみを礼拝しなければならなかった。そうすることで人々はカナンの地に留まることができ、神の祝福を受けることができる。しかし他の神々を拝むのであれば神様はイスラエルを敵の手で滅ぼされるままにする。だが、人々は神様への信仰を強固で継続的な献身を示したわけではなかったのです。士師記ではそれらを次のような行動パターンとして描かれています。

1. 人々が神様に背き、他の神々を拝む。
2. 神様は外敵を用いてイスラエルの民を罰する。
3. 人びとは苦しみの中で神様に助けを求める。
4. 神様は士師を選び、士師が敵との戦いを指揮する。
5. 士師が死ぬと、また人々は神様に背き、同じことが繰り返される。

つまり「士師記」では大きく二つの戦いが描かれていると言えます。それは元来そこに住んでいたカナン人との土地の支配権での争い、そしてもう一つはカナンの宗教によってイスラエルの信仰が試されるという信仰面での戦いです。しかし同時に、神様は失敗を繰り返す人々に対して、神への信仰に戻る機会を何度も与えています。民は何度も神様を捨てたけれども、神様は彼らを見捨てなかったことが描かれているのです。

権 甲植 (続く)

